

閃  
乱  
炎  
漆  
闘  
巾  
長

片耳豚  
**R18**  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止



閃  
乱  
刃  
牙  
屋  
長







焰さんの淫闘

強制発情の段



淫術って正直  
ならってもちょっと……  
ってところあるよね  
でも焰さん捕まるの巻



時間の感覚が  
曖昧になっている

肉体の感覚だけは  
時間とともに鋭敏に  
なっていく

自分の体だというのに  
己の意志で制御することが  
できない――

思考は霧がかかったように  
働かないのに

一瞬の油断――  
敵の人数を見誤ったのも  
不手際だった……



気分はどうだ女忍者？

ふぎ……けるな！  
いいわけが……  
あるか！

随分と蟲達にも  
懐かれたものだ……

その口ぶりからすると  
だいぶ仕上がってきたようだな

この程度のことぞ——  
私が……口を……  
割ると思っているのか？

わるさ……



そのザマでは直に割る。  
相手が女であれば  
いくらでも手はある

くそっ——こんな  
術とも言えないような  
じゆ——つううう——

そおら……  
少し気を抜いただけで  
表情が蕩けてきたぞ

ひゅ——！  
くっ——うっうっうっ！

口は立派だが実行が  
伴わなければ滑稽なだけだぞ

こん——なっ！  
こん……な蟲じときでえ——

淫忍の生み出した  
挟り蟲だぞ？  
「くっ」を束ねて「女」にする  
そのためだけの蟲術だ



早めに喋ったほうが  
身のためだと思うがな……

お前が女である以上  
我々の責めからは  
逃れられん……

自決も許さん……  
「狗」の奴が封心の法を  
かけたからな……

改めて宣言しておくが……  
「お前」は絶対に逃れられん

では始めるか……  
せいぜい後悔せんようにな



あの時——油断がなかったといえば嘘になる

何人殺られた？

五人ダナア  
派手ニヤラレタ

デエ……ドウスルウ？

情報を聞き出す  
蟻の準備をしろ

仲間ニ勸付カレルト  
厄介ジャネエカ？

大したものだ……  
さすがは蛇女の忍びだな

蟲をつかつて追い込んでやれば  
よからう……  
どうせ助けを呼ぶどころ  
ではなくなる



コレハコレハ。  
随分ト見事ナ肉付キ

使い甲斐があるだろう  
さっさと用意してこい

下衆共めっ——

ジヤア。トビツキリ  
新鮮ナ奴ヲ張り切ツテ  
使イマスカイ?

お前は前置きが長過ぎる……  
クライアントにも急かされているんだ  
モタモタしている時間は  
ないと言つとるんだ

短期ダナエ。才前ハ  
ジヤコレ!  
御対面ダナア!

ク〜ジ〜リ〜ム〜シ〜



サマデ。オ立会イ  
コイツは挟リ虫  
女好きダガ。ナカナカ  
イイ奴ダ

効果ノ程ハ……  
マア体験シテモラウトスルカ


ホ

ソオレ行ケ

ポト

奴らが持ちだしたのは  
グロテスクな蟲だった





淫術のたぐいであることは  
奴らの口ぶりからわかっていた  
対処法も身体制御で  
どうにかなる――

そんな甘い考えを  
していたツケは――  
すぐさま感覚を  
伴う後悔としてやってきた



思い出すだけでも――

おぞましいあの感覚……



悔つといたと……  
言わざるを得なかった

胸と股間に張り付かれた  
次の瞬間――

あらゆる感覚を快感に  
書き換えられたような  
―― 激感

絡め取られた――  
この時始めて私は自分の  
現状を正確に理解した

一瞬それが何か  
理解することができなかった

抵抗の意志と覚悟が  
一枚一枚剥がされていく悪寒

そして――奴らは席を外し  
私を放置した――







感じ——おかひい  
なんれええええ！  
私のカラダなのがいいい！

なん——でえう  
どうしようんな——に  
はひい！

蟲責めから解放されるやいなや  
今度は直接的な陵辱に切り替わる——  
かろうじて理性は保っていたが  
その時の私は——もう  
肉体的には完全に屈服していた  
そしてこの男の責めもまた  
私の予想を大きく裏切った



素面ならいざしらず  
今のお前ではこの快感に  
抗うのは無理だ

強制的に発情させられた上  
……まあ淫術に長けていない  
女忍者ではどちらにせよ  
カモネギだな

分かるか？  
お前は最も感じる極点を  
調子を外して  
飛ばれているんだぞ

来ると分かっているものなら  
ある程度耐えられるだろうが

俺はその勘所を全く  
外せる……

一気に挟る

効果の程は……  
まあ聞くまでもないか

分かるかつまり……  
表面的な刺激に  
集中させておいて……





一つ悪い知らせがある  
お前のことをクライアントに  
知らせたのだが

先方がお前を  
気に入られたらしく  
雌奴隷として  
可愛がりたらしい



記録はきちんととっておけ  
クライアントがご所望だ

アイミー



だからこのみち  
お前にはしばらく

襲を受け続けても構わない




気ノ毒ニエ。  
マア。ドモデ頑張レルカ  
観モノデハアルネエ



サー笑ッテ笑ッテ  
陽気ー。イコウ

やめーろおつ……  
とる……とるなまー






それから先の時間は  
ただ只管の淫獄だった

中で精液を吐き出されるたび  
自分が壊れていくような快感

こちらの懇願を完全に無視し  
ただ一方的に快楽を  
与えられ続けた



その時にはすでに  
私の中から脱出の二文字は  
抜け落ちていた

無抵抗のまま自分の  
穴を思うさま蹂躞されていく

そして――







長イ。ツキアイ——ニ  
ナルカモシレナイネエ

面の男のそんな眩きを遠くに  
私の意識は闇に落ちた——

そしてその日から——  
私を墮とすための淫獄が  
確かに開始された



気がつけば焔さん  
MAX 可愛い  
でも  
うわー時間がなくて  
これまでです  
地味に続き描いてきたいです

寒衣屋



奥付  
発行 / 片耳豚  
印刷 / コムフレックス  
発行日 / 2011.12.31  
連絡 / [katamimibuta@yahoo.co.jp](mailto:katamimibuta@yahoo.co.jp)